

【来賓挨拶】 自民党スポーツ立国調査会・宮内秀樹衆議院議員

日本人はスポーツが大変好きですね。日本においては学校スポーツのことを体育というわけですが、その体育を教育の中にしっかりと取り込んできた歴史があります。そのため、スポーツを習うことはタダであるという考えが、まだまだ底流に根付いているのではないかと思います。

しかしながら、時代も大きく変わってきて、世界各国がさまざまなスポーツを通じたビジネスを展開している中では、我が国においても、スポーツがビジネスとして、社会の活力として好循環するような仕組みを作るべきだと考えております。

とは言え、社会に定着してきた日本のスポーツを、「ああしなさい」「こうしなさい」、と一方的に法律で決めて引っ張るようなことはできません。社会全体としてどのように考えていくのか国民の理解を深めていかないと、スポーツの持つ力を社会に取り入れることができないのではないかと、私自身は思っております。

今まさに、中学校の部活動の改革、地域移行という問題に取り組んでおりますが、学校での部活をすぐやめて地域に一気に移しますというようなことにはなりません。部活にいい思い出がある、私の青春があったと思っている方もたくさんいます。地域のコミュニティでスポーツを広めていく活動をしてく中で、そこに部活を取り込んでいくというような考え方はできないか、それぞれの地域で議論を始めていただきたいとお願いしているところでございます。

たくさんの方々の中にはスポーツに対する価値観が少しずつ違うという問題がありますが、子供たちにスポーツの機会を確保し、スポーツの楽しさを小学校、中学校、高校のときに体験できれば、その後、スポーツと関わる人生がスタートし、スポーツに触れる機会が多くなり、豊かな人生になっていくのではないかと考えています。そういう社会をつかっていくためにも、この部活の問題を社会とスポーツの問題としてぜひ議論していただきたいと、考えているところでございます。